

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,417	t-CO ₂
① （温室を除く） 二酸化炭素換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,417

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度			
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	1,417	t-CO ₂	1,375	t-CO ₂	3.0	%

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度			
			目標排出量		目標削減率	
原単位当たりの 排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

空調に関して昨今の猛暑（天候不順）を鑑みて、空調機の極端な節電対策に繋げるよりも、熱中症等の健康管理面を重視して運転を実施。この為、大幅な排出量の低減の目標値は3%程度に留めた。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
空調	<ul style="list-style-type: none"> ・店内空調管理の徹底 ・空調機自体の保全に努め、熱効率の向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備担当による、冷温水発生機の冷房26℃、暖房20℃設定のきめ細かな運用。 ・空調機のフィルター等こまめなメンテナンスにより効率を高める。
節電	<ul style="list-style-type: none"> ・電気使用機等の節電対策 ・デマンドアラートの積極的な活用とアラート時の対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、コピー機等は離席時、退店時に電源を落とす。 ・夏期のデマンドアラートによる空調機一時停止と店内照明の一部消灯の実施。
同友店	<ul style="list-style-type: none"> ・同友店間のエネルギー使用量等の情報を店長会等で共有する。 ・廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の促進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月別に各テナントの電力使用料実績を開示し節電注意喚起を実施。

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--